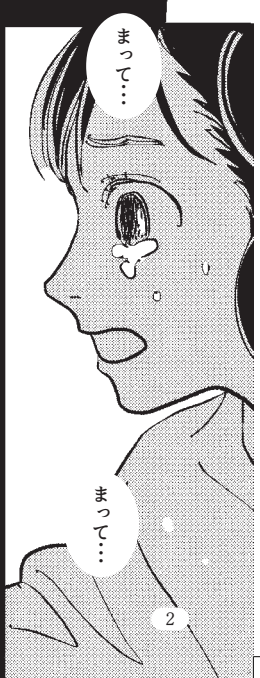
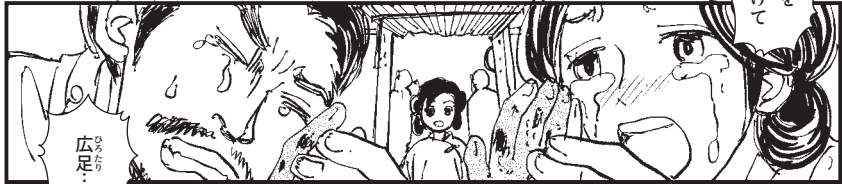
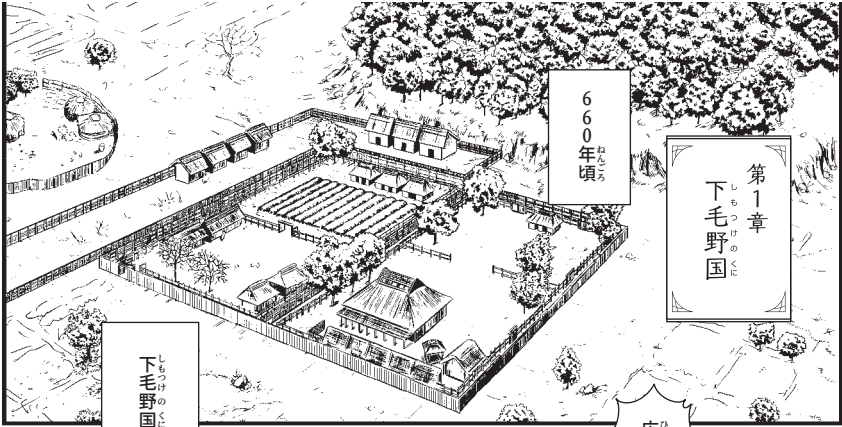


マンガぶるさとの偉人

下毛野 古麻呂

しもつひのこまろ





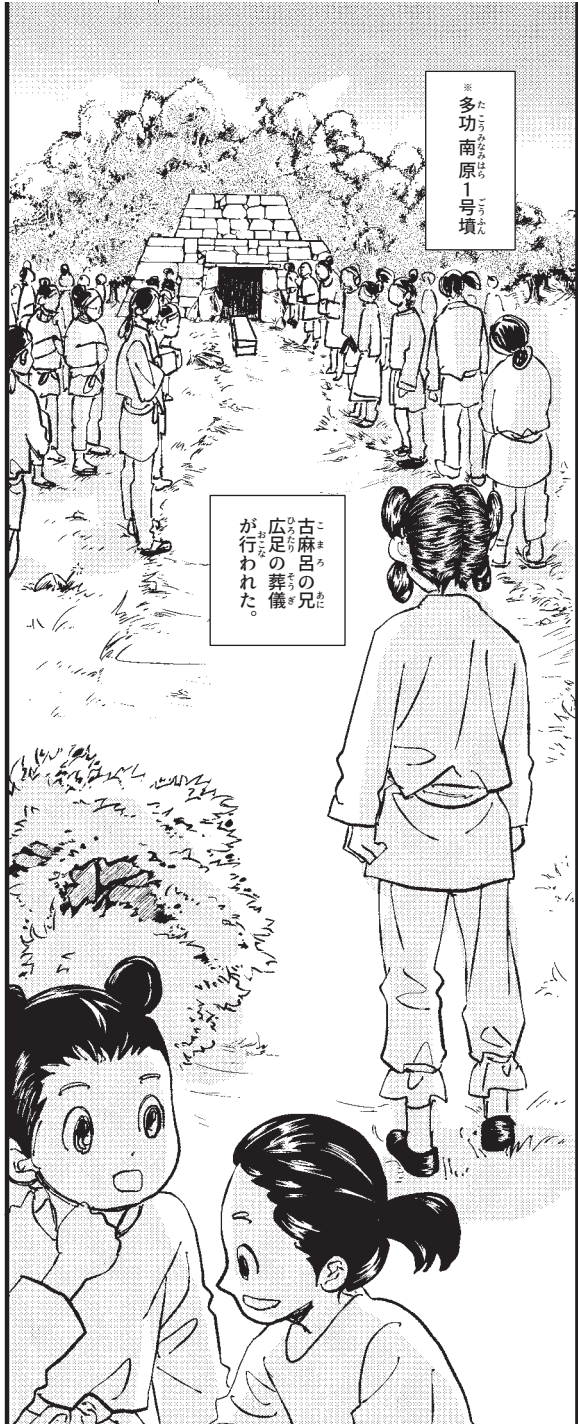
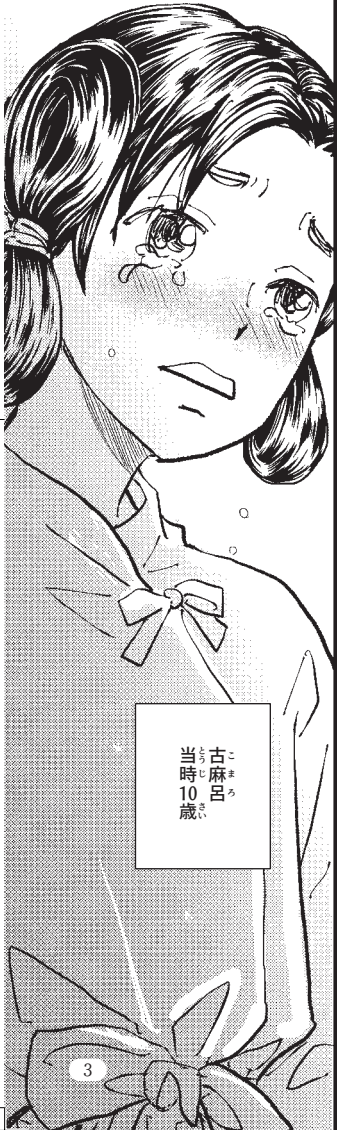
※現在の三川町にあった30m四方の四角形の古墳（六方墳）

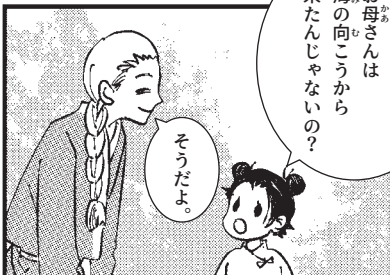
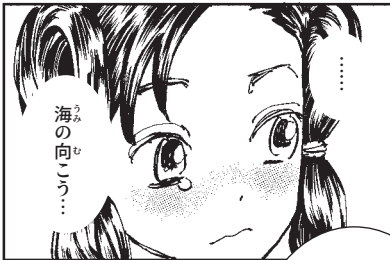
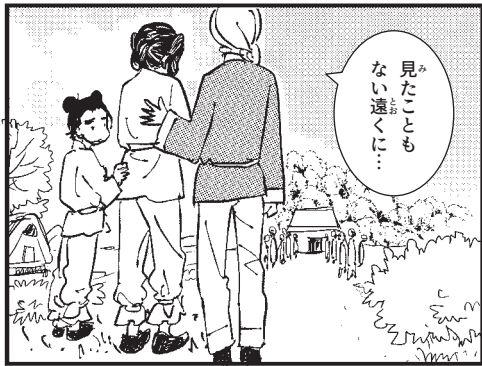
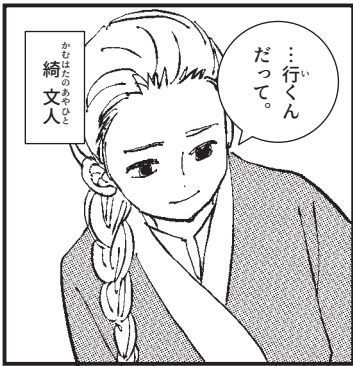
※多功南原1号墳

古麻呂の兄
広足の葬儀
が行われた。

兄さん…

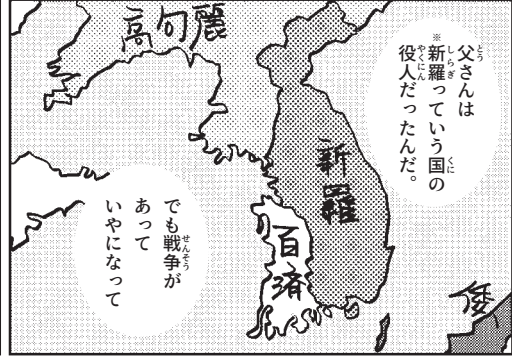
古麻呂
当時10歳





※古代の朝鮮半島東部にあった国

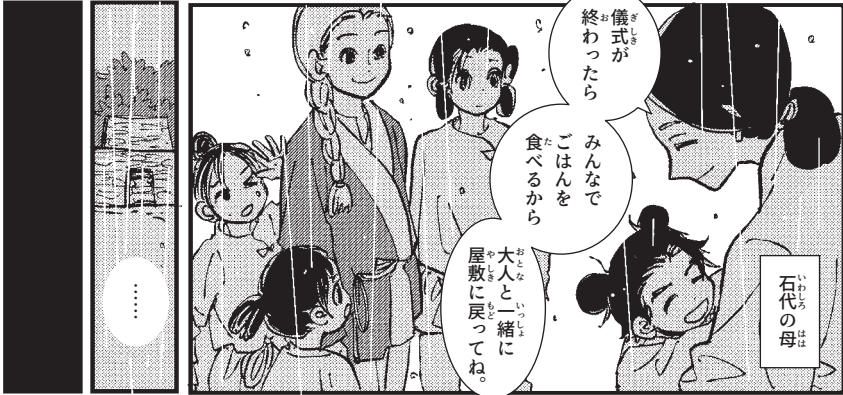
父さんは
※新羅っていう国の
役人だったんだ。



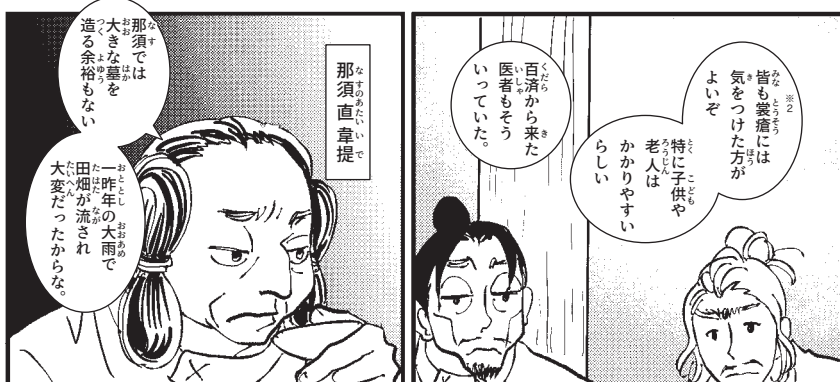
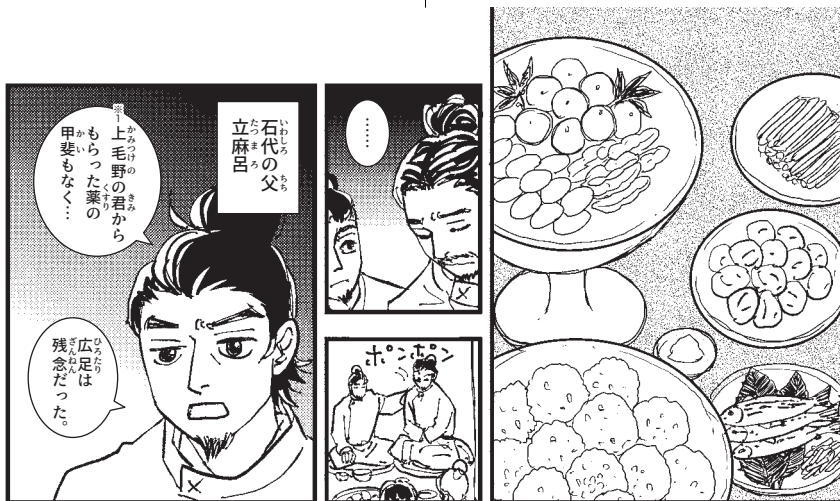
でも戦争が
あって
いやになって

倭にきた
んだって…

they they



※1 現在の群馬県周辺の名称



※2 『続日本紀』に記されたウイルスによる伝染病。

病態とも呼ばれる天然痘のこと



※4 現在の壬生町周辺に勢力を持った豪族

※3 壬生車塚古墳のこと。直径135m、墳丘(塚)直径82m、高さ11mの円墳

※5 鬼怒川東岸で、現在の真岡市周辺に勢力を持った豪族

芳賀の豪族

那須と同じく、川が暴れて田畑が流されたため被害があり

それどころじゃない。



もどもぐ



大和でもデカイ墓じゃなく、石室の中に星空や龍などを描いた小さくてキレイな墓を造っているらしいぞ。

※6 古代の朝鮮半島西部にあった国

裳瘡も大変じゃが

近いうちに百濟を助けるために大軍を出す計画があると聞いたぞ。

上毛野からの使者

東国からも多くの兵を出すようヤマトの王から指示があったが

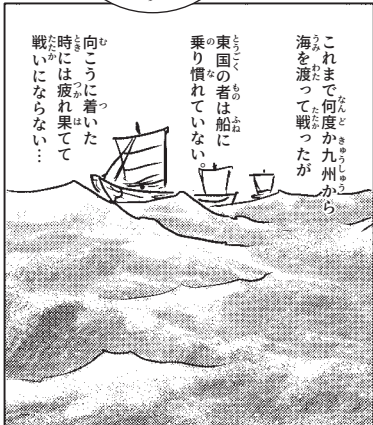


下毛野はしかがなさるのか？

上毛野のしるしするならば、われらも行かないわけにはいきまい。



※7 現在の福島県ふたに庄み



これまで何度か九州から海を渡って戦ったが東国の者は船に乗り慣れていない向こうに着いた時には疲れ果てて戦いにならない！

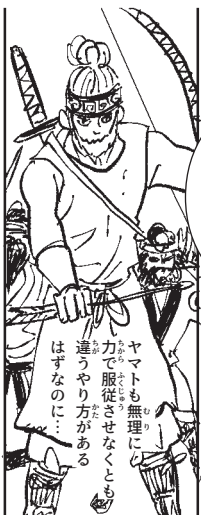
そこで待ち伏せされたんじゃあまったものじゃない。



異国との戦いも大変だが、われらは蝦夷との戦でも最前線に行かされる。



※ 現在の福島県いわき市周辺



「わたし
磐城の者は
蝦夷の者たちの
気持ちもわからなく
もないんだ。」

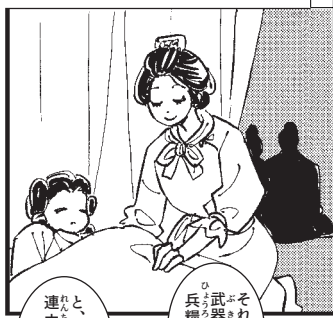


「磐城国造の使者」

「ヤマトも無理に
力で服従させなくとも
違うやり方がある
はずなのに。」



「東国の者の
負担はひどい
もんだ。」



「それに
武器を造れ
兵糧を出せ
と、ヤマトの
連中は言うが、」



「いやな
世の中だな。」



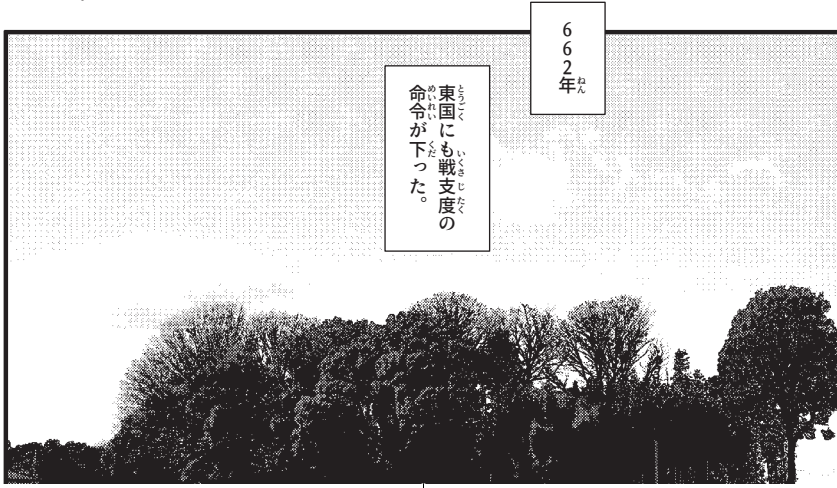
「どんな者でも
やられたことは
忘れられないからな。」



「力で攻め立てて
ムラを焼き払う
から反発するんだ。」

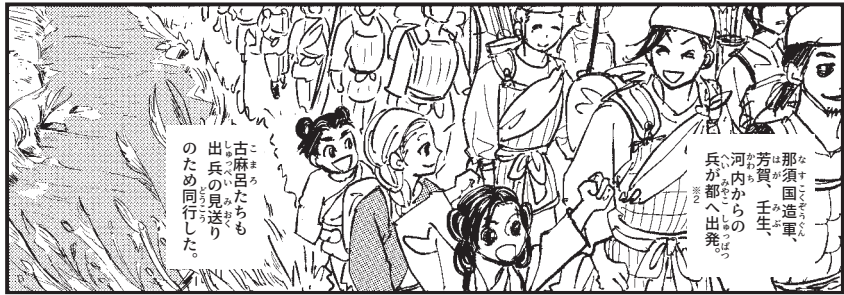
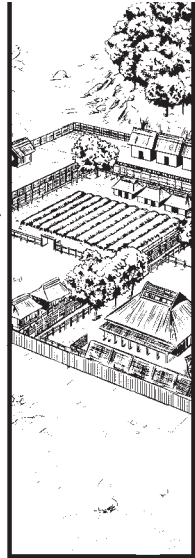
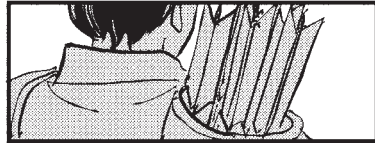
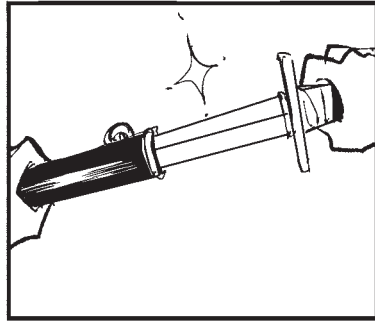


「できれば
戦は
したくない
んだがな。」



662年

東国にも戦支度の
命令が下った。



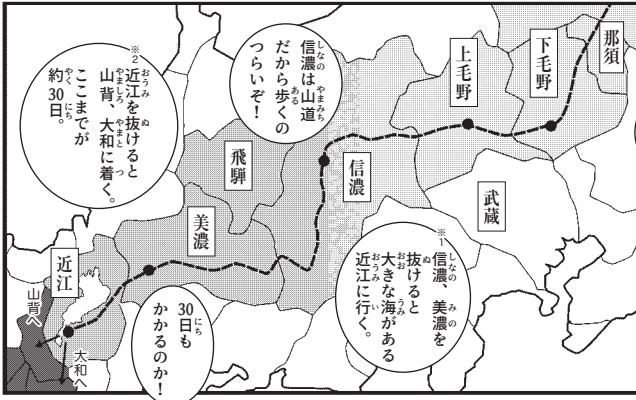
※2 現在の奈良県明日香村にあった飛鳥岡本宮のこと



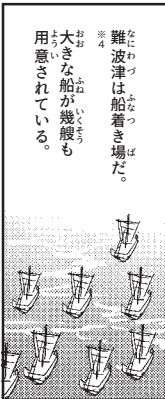
※3 古代の役所



※1 信濃：現在の長野県、美濃：現在の岐阜県南部



※2 近江：現在の滋賀県、山背：現在の京都府南部



※3 現在の大阪府中部にあり、『古事記』では「川内」とも記されている

※4 瀬戸内海 ※5 現在の福岡県のはほぼ全域

※4 古代の大坂湾にあった船の着く場所、現在の大坂市中央区付近にあった



お前ら海を
見たことあるか？

……

俺は芳賀の出身だから常陸から塩を持ってやるやつに海の話聞いたことがある。

筑紫まで行ってそのまま新羅を攻める命令が出ないで帰ってこられるといいんだけどな。

……

冬には子供が生まれるんだけどな。

帰らせてくれなかな。

663 (天智2) 年



兵たちは傷つき、中には帰ってこなかった兵もいた。

白村江の戦いで大敗北し



しかし

逆らうわけにはいきまい。

もはや再度海を渡った戦はできまい。



……この後また兵を出せと命令があったが

……いする？

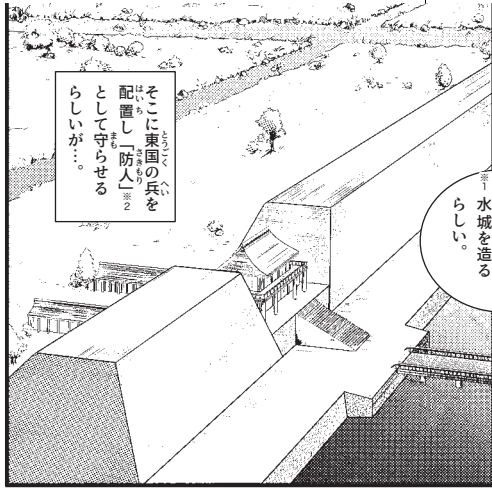
磐城の長



足利の長の屋敷

*7 現在の足利市周辺

芳賀の長



そこに東国の兵を配置し「防人」として守らせるらしいが…

※1 北九州の防備にあたった兵士で、その多くは東国から送られた



オレが聞いた話だと

今度は新羅や唐が攻めてくるので…

筑紫の役所を護るため水城を造るらしい。

※1 全長約1.2km、高さ9m、幅80mと25mの2段でできた敵から防御するための施設



どうも大王は今回の戦は最初から勝つことを考えていなかったようだ。

なんだと!



上毛野の長は今回の戦で將軍を務めたが

負けた責任を負わされたようだ。



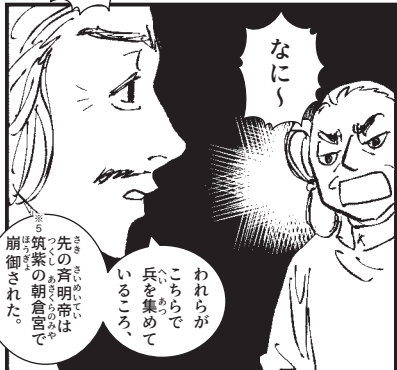
結城の長

石の堀を持つ城を造るらしい。

筑紫から内海沿いに難波、河内の山まで、のろし台や山の上に

※3 現在の茨城県結城市周辺

※4 煙を上げて情報を伝える通信のしくみのひとつ



なに

先の高明帝は筑紫の朝倉宮で崩御された。

われらが兵を集めて



恐らく、われら東国の者たちから兵や財を出させて力をそぎ、

ヤマトの言うことを聞かせるつもりだったらしい。

※5 現在の福岡県朝倉市にあった宮殿「朝倉橋広庭宮」のこと



西国各地でも
蓄えがなくなつて
しまったと
聞いておる。

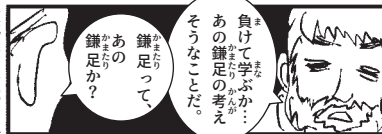
われらが半島に渡る前、
すでに西国からは
兵が出されていた。



蘇我を滅ぼした人だよな、
その中大兄皇子は。



その権限を受け継いだ
中大兄皇子と中臣鎌足が
すべて考えたようだ。



負けて学ぶか、
あの鎌足の考え
そんなことだ。

鎌足って、
あの
鎌足か？



近いうちに
新しい法が
出されるらしい。

何やら中大兄の命令で
弟の大海皇子と
中臣鎌足が
作っていると
聞いたが、

半島の国々や唐の
法をマネたような
ものだとか！

どんな内容
なんだ？

なんでも、
半島の国々や唐の
法をマネたような
ものだとか！



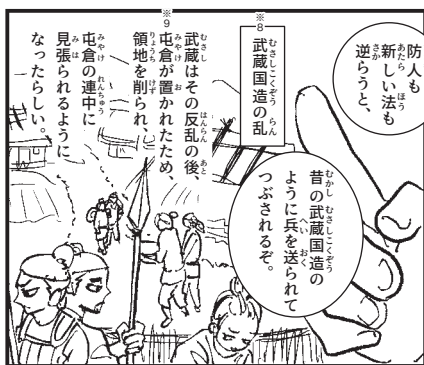
都に行った時に会ったよ
元々、ヤツは俺らと同じ
東国の出だ。

東国の言葉を使うんで
聞けば常陸の
出だという。鹿島の宮
の一族らしい。

※6 現在の茨城県西・南部をのぞく茨城県全域
※7 鹿島神宮(茨城県鹿嶋市)



俺は筑紫で
大志な藝を見た
俺も



昔の武蔵国造の
ように兵を送られて
つぶされるぞ。

武蔵国造の乱

武蔵はその反乱の後、
屯倉が置かれたため
領地を削られ、
屯倉の連中に
見張られるように
なつたらしい。



俺も聞いた
ことがある。
奴のことだ、
恐らく

新しい法も
防人も
逆らうと、
新しい法も
逆らうと、

たまったもん
じゃねえな。

なんて大王らに
吹き込んで
いるんだらう。

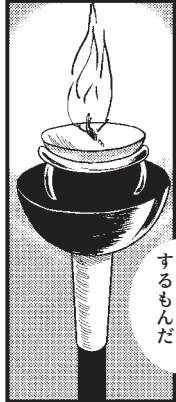
現在の埼玉・東京都・神奈川県東部を治めた(長)による戦い

※1 継体天皇21(527)年、朝鮮半島南部へ出兵しようとするヤマト政権に対して磐井が起こした反乱

※1 磐井の乱

聞くと、どうも磐井が半島と手を組んでヤマトに歯向かったのがバレて、ヤマトから大軍が送り込まれ、見せしめに墓が壊されたと言った。

ひでえことをするもんだ

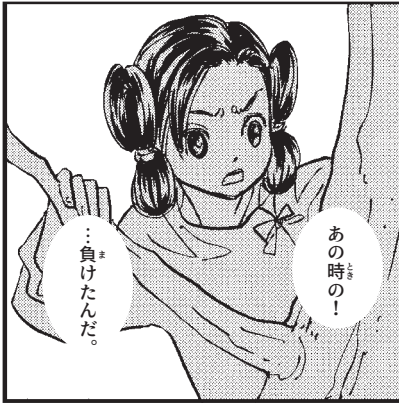


※2 下毛野国河内

※2 現在の下野市とその周辺



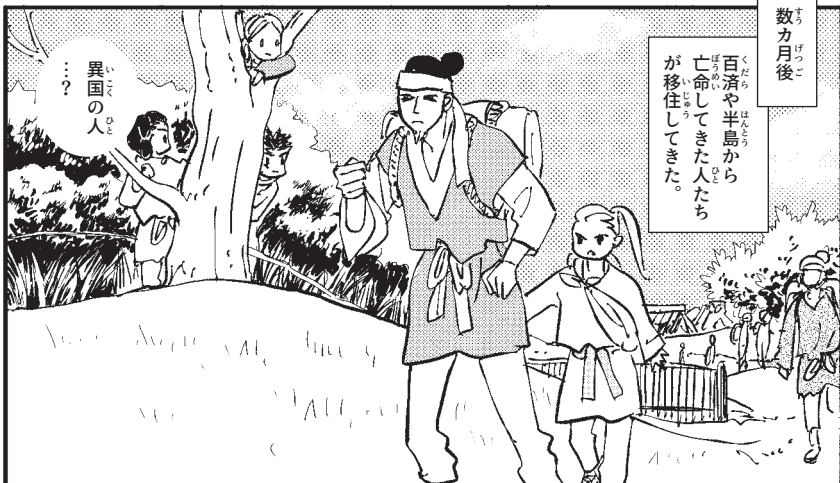
白村江の兵たちが下毛野へ帰郷した。



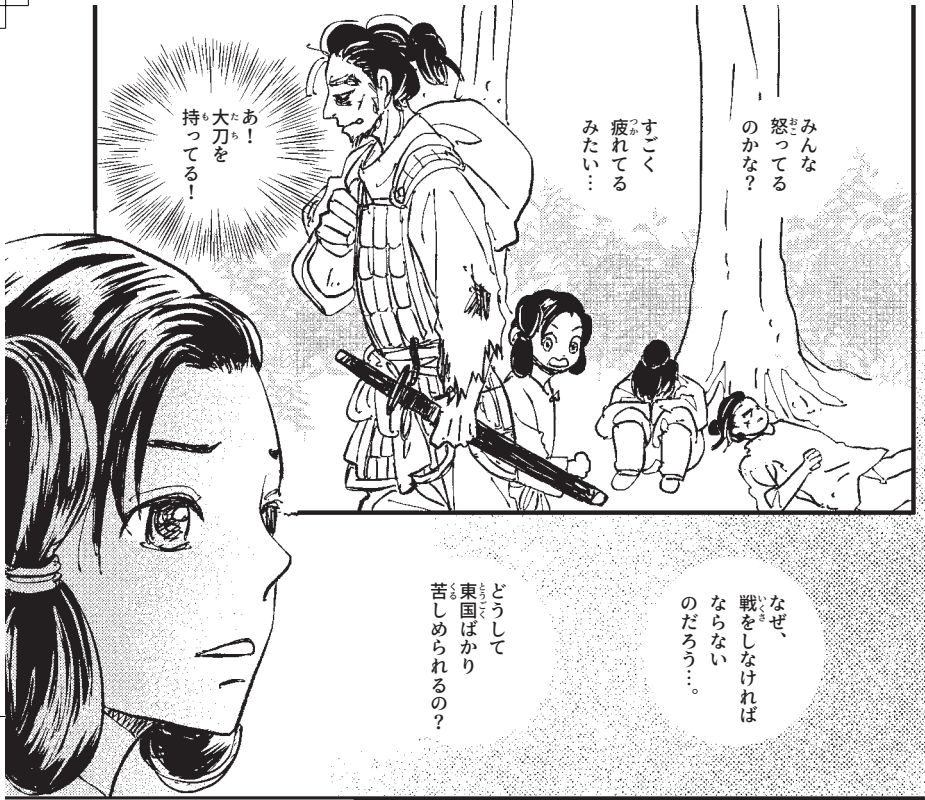
あの時の!

…負けたんだ。

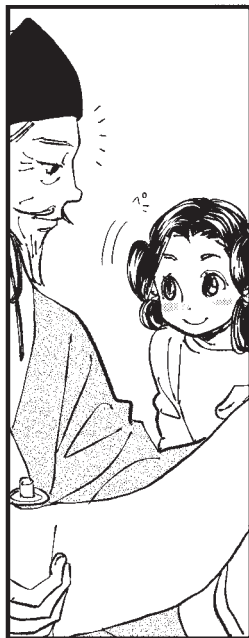
数カ月後 百済や半島から亡命してきた人たちが移住してきた。



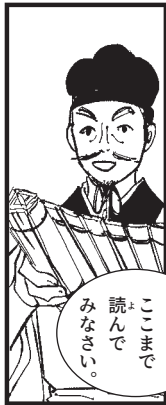
…異国の人が?



※ 王などの権力者が領土や人びとを治めること。政治







不比等、
ここまで
読んで
みなさい。



都の学舎

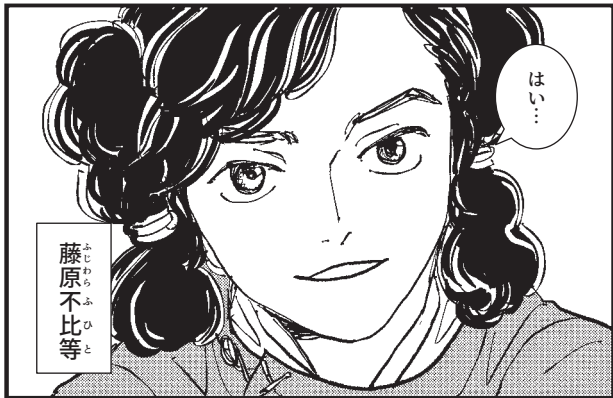


こうして
古麻呂は

徳老人が開いた
「学舎」で様々な
ことを学んだ。



この頃、
不比等も
都の学舎で
学んでいた。



はい…

藤原不比等



またね、
兄さん。

第1章おわり

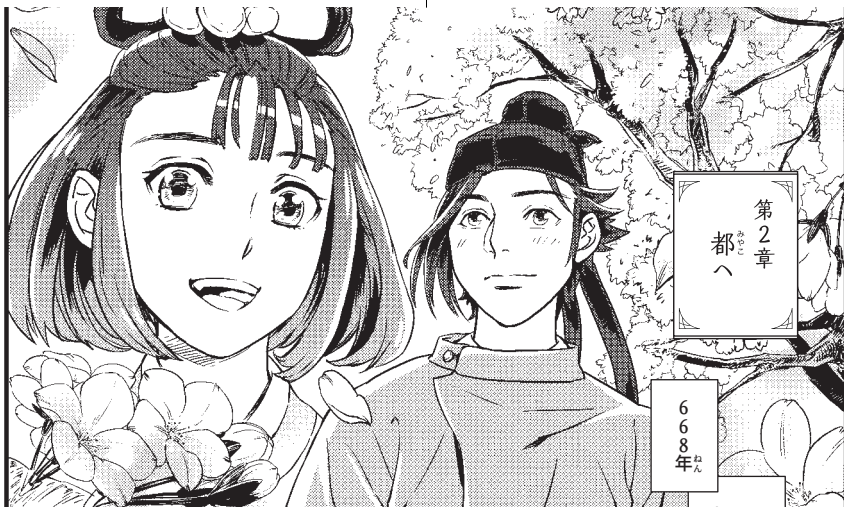
それじゃ…

古麻呂は成年まで
異国の言葉や
法律、戦の仕方
などを学んだ。



おしい
古麻呂

古麻呂
行こうよ。



第2章
都へ

668年

天智天皇の即位に伴い、
都（近江大津宮）へ。



大化の改新以降、
天皇が変わるたびに
宮殿の場所は
変えられていた。

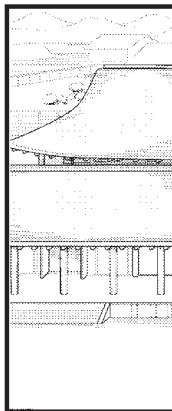
新制度において
各地の豪族の子弟が
舎人として都で
勤務していた。



663年の
白村江の敗戦以降、
都は難波津から最も遠い
近江に遷っていた。
唐・新羅軍が攻めて
きた時、内陸の方が
守りやすいからである。



古麻呂は近江へ初めてやってきた。



同行の文人・阿比登も
白村江の出兵の時、上毛野までは
来たことがあったが、
その先の信濃へ飛騨へ美濃から
近江への行程は初めてであった。



古麻呂には
供として、
渡来系氏族の子の
綺文人と

蝦夷の血を引く
伊須美阿比登が
都へ同行した。



また、文人と阿比登は
古麻呂の従者として、
都で懸命に働いた。



翌日から
古麻呂は
大舎人として、



天智天皇が
近江を進めている
新しい都で新しい
政治体制づくりに
は、

全国各地から
大舎人として出仕して
官僚になることを
目指した人たちと

新羅や百濟
高句麗、唐
などから渡ってきた
人たちが多く参加
していた。



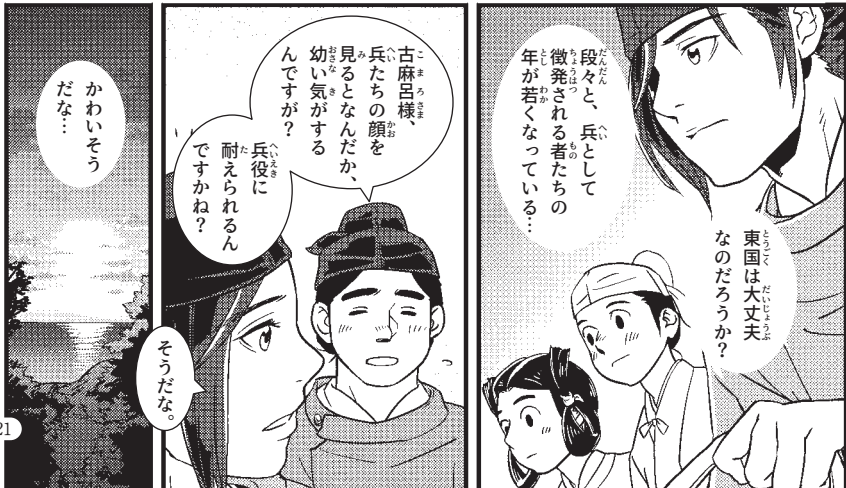
新しい政治制度やその根幹となる法律を学ぼうという古麻呂を含めた志の高い若者たちは、

唐や新羅などで官僚として働いた経験のある人たちから

法律や様々な政治の仕組みについて学ぶ日々を過ごした



秋には仕事で難波津に向かった。その仕事とは、上毛野や下毛野、磐城から追加徴発された兵を難波津まで送る仕事であった。



段々と、兵として徴発される者たちの年が若くなっている…

東国は大丈夫なのだろうか？

古麻呂様、兵たちの顔をみるとなんだか、幼い気がするんですが？

兵役に耐えられるんですかね？

そうだな。

かわいそうだな…

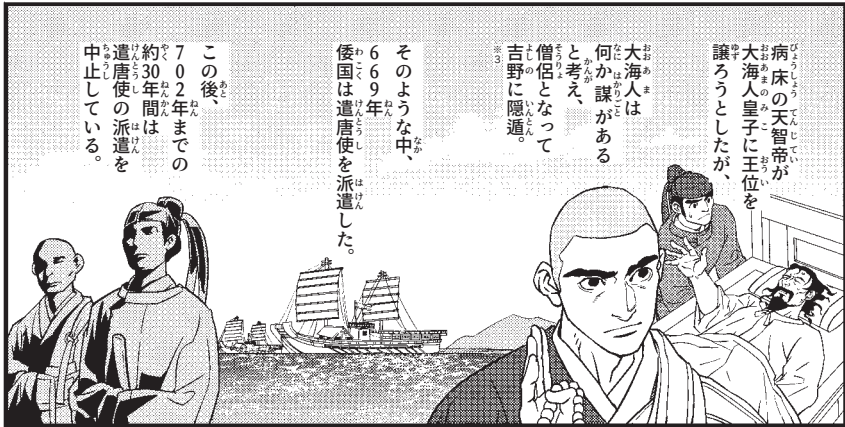
※1この頃、668年には唐・新羅連量が高句麗を討滅させており、後に半島から唐を追い出し新羅が半島を統一した



古麻呂たちが
都で働きだしてから
およそ3年。

671年12月。
古麻呂18歳の時、
天智帝が崩御。

※2 天皇・皇后が死ぬこと



病床の天智帝が
大海人皇子に王位を
譲ろうとしたが、

大海人は
何か謀がある
と考え、
僧侶となって
吉野に隠遁

そのような中、
669年
倭国は遣唐使を派遣した。

この後、
702年までの
約30年間は
遣唐使の派遣を
中止している。

※3 現在の奈良県吉野町周辺



大海人が
東国に使いを出し、
尾張・遠江近辺の豪族や
豪族から官僚になった者
たちの動きはあった。

しかし戦闘が始まった時
北関東の者たちは
情報がなく、
動きようがなかった。

古麻呂たちは、東国や下毛野との
連絡を取るすべもなく、
どちらに加勢するかを考えていた。



こうした情勢の中、
672年、古代最大の内乱である
壬申の乱がおこった。



※4 奈良県桜井市にある最古の前方後円墳、箸墓から三輪山付近が戦場となった



早く良い物を出せ！
この年寄りを殺すぞ！

うるさい!!

お前、兵ではないな。
戦ったことないやつが
偉そうなこと
言うんじゃないぞ！

その女！

金になるような
物を持ってこい！
あと、酒だ！



あなたたちこそ、
早く出ていかないと
痛い目にありますよ！

大海人様の兵が
こちらに向かっ
ているはずですよ。



ここには
そのようなものは
ありません！



さては
吉野方の
間者か？



お前、何で
そんなこと
知ってんだ？

恰好からしても
ただの村娘では
ないようだが…

